盛商新聞

第170号
発行日
2024年３月１日

編集兼発行
〒020-0866
岩手県盛岡市本宮２丁目35-1
県立盛岡商業高等学校
新聞編集委員会

印刷所
杜陵高速印刷株式会社

思いを途切れさせずに
～創立１１０周年記念式典開催～

本校は昨年度の２０２３年をもって、創立１１０周年を迎えた。それを記念して10月13日に式典及び講演会が行われた。他にもサッカーや野球の招待試合、記念植樹などの記念事業が多く開催された。

本校創立１１０周年を記念して、さまざまな行事が開催された。昨年６月２日には、硬式野球の創立１１０周年記念招待試合が行われた。雨の中、全力で試合をする選手たちを、野球部とマネージャー中心に全校で応援した。マネージャーの声援は人数の何十倍もの大きさで圧倒された。９月13日には、サッカーの創立１１０周年記念招待試合がいわぎんスタジアムで行われた。10月12日には、ベルリン五輪男子三段跳びの金メダリストの田島直人さんに由来する「栄光の樹」の植樹式が行われた。13日には、マリオスで記念式典が行われた。生徒代表の小松拓海さんは、「私たちは"Think globally,act locally."（地球規模で考え、地域で行動する。）を実践し、高校生としてできることを考え、地域に根ざした活動を行うことにより、持続可能な社会の実現に貢献することを目指します。」と語った。式典の後、大嶋啓介さんが講演をした。全校で、勝っても、負けても、お互いに全力で喜ぶという「本気じゃんけん」をした。じゃんけんをする前と後に前屈をしてみると、じゃんけんをした後の方が伸びた気がした。創立１１０周年記念行事に立ち会えたことを誇りに思う。

（３Ａ　藤原　彩羽　藤原　渚海）

新年を迎えて

生徒会長　２Ｅ　浅沼　愛和

新年を迎え2か月が過ぎました。本年もよろしくお願い致します。

盛商は、今年で創立111年目を迎えます。更なる発展を目指し、生徒会活動をはじめ様々な活動を頑張っていきたいと思っています。

昨年は、沢山の事を経験させていただきました。まず創立１１０周年記念式典では、これまで先輩方が作り上げてくださった本校の歴史を振り返るのと同時に、貴重な節目に立ち会えたことが本当に素晴らしいことだと実感しました。また、新型コロナウイルスが五類に移行したことにより、ほとんど例年通りの形で開催することが出来た文化祭。模報店や後夜祭なども開催され、皆さんの笑顔が沢山見られた二日間だったと思います。ここまで充実した一年間を過ごせたことは、保護者の方々や先生方のお陰だと本当に実感しています。本当にありがとうございます。

さて、冬季休業は充実した期間となったでしょうか。一・二年生は検定試験に向けて勉強にしっかり取り組むことが出来たでしょうか。冬季休業を終えると、盛商生が一年で一番大変な時期となります。試験やテストが続き精神的にも辛くなってしまいますが、リフレッシュも忘れず、友達と助け合いながら全員合格を目指して頑張って行きましょう。

今年の生徒会活動は、皆さんがさらに学校生活に充実感をもてるよう、生徒の意見を大切にし話し合いの場を設けて、実際の学校生活に反映させることが出来るよう、全力で頑張っていきたいと思います。また、行事活動においても昨年以上に楽しんでもらえるよう計画し、準備したいと思います。

盛商の生徒会長として活動できることに本当に感謝しています。引き続き、生徒の皆さん、先生方や保護者の方々のご協力を、是非よろしくお願い申し上げます。

創立110周年記念事業　サッカー招待試合

創立110周年記念事業　記念植樹【「栄光の樹」の由来を語る小山尚元氏】

創立110周年記念式典　講演会【「本気じゃんけん」の様子】

創立110周年記念式典　講演会【講演を聴いて手紙を書く】

生徒会長に聞いた盛商への思い

創立１１０周年記念式典で、生徒代表挨拶を述べた、前生徒会長の３Ｅ小松拓海さんにお話を伺った。

盛岡商業高校が１１０周年を迎えたことについて小松さんは、「今まで受け継がれてきた先輩方の思いを途切れさせないように盛商ブランドを徹底的に確立してほしい。前生徒会長として厳しい気持ちで盛商と向き合っていきたいと思っている。」と語った。

前生徒会長の立場として、盛商の生徒にはこれからいろいろなことに挑戦してほしい気持ちや、常識のある行動をしてほしい気持ちなどがあると話した。今の生徒会に対しては、周りへの指示や周囲をまとめる力など、自分の強みを存分に生かしてほしいという熱い思いを語ってくれた。

（３Ｂ　増澤　香乃　野川いぶき）

第31回全国高等学校生徒商業研究発表大会優良賞

今年度は、研究テーマを「Connect」～盛岡市のコーヒー文化をつなぐ新たな価値～と設定し、共創による商品開発を通して、生徒たち自身が「共創型デザイナー」としての役割を意識しながら「商業の学び」を生かした活動に取り組んできた。昨年一月にアメリカのニューヨークタイムズが「２０２３年に行くべき52か所」を発表し、イギリスの首都ロンドンに続く二番目に、盛岡市が紹介された。この記事で、盛岡市のコーヒー店や喫茶店などが紹介されたことをきっかけに、今年度の研究テーマを設定した。7月15日に行われた令和5年度岩手県高等学校生徒商業研究発表大会では優勝した。8月19日に行われた第27回東北六県高等学校生徒商業研究発表大会でも優勝した。そして、11月22日に行われた第31回全国高等学校生徒商業研究発表大会では、優良賞だった。生徒たちは、「毎日、放課後に遅くまで残って作業したり、休日にも活動したりと忙しい日々で大変なこともあったが、地域と関わることが多く、地域のことをより知ることができるきっかけになったし、社会経験にもなり、コミュニケーション能力を高めることができた。そして、自分達が学んでいる経済について深く考えることができた。」と語っていた。

（３Ａ　藤原　彩羽　藤原　渚海）

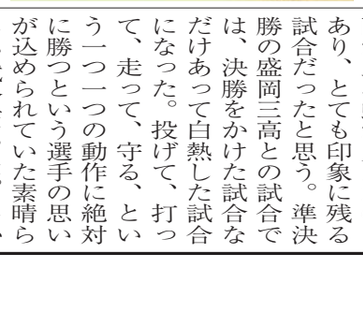
第46回岩手県高等学校総合文化祭 書道部門 第一種（漢字、かな）優秀賞

岩手県高等学校総合文化祭書道部門の表彰式が11月21日に岩手県民会館で行われた。本校では２年生の氣田彩香さんが優秀賞を受賞し、全国大会出場の権利を獲得した。氣田さんは2年生で、全国大会に出られるのは今回が最後のチャンスだった。氣田さんは３１３名の中で上位5名に入ることで最後のチャンスをつかんだ。今回はそんな彼女に話を聞いた。

作品名は「臨　曹全碑」で横長になるように気を付け、横列を意識して書いたという。また、波磔（はたく：長い右払い）がない字を横長にするのが難しかったとも思っていたそうだ。優秀賞を受賞して全国大会出場が決定したことを知ったときは、「まさか自分が優秀賞を取って、さらに全国大会出場までできるとは思っていなくてびっくりした。」と言っていた。

氣田さんは令和6年の8月に岐阜県で開催される全国大会に出場する。彼女の今の目標である「質を高めて上を目指したい。」という言葉にこれからも期待が止まらない。

（３Ｃ　大野　晶央　山影　峰葵）



いってきました 修学旅行
京都・奈良・大阪
11月21日～24日

11月21日から24日までの３泊４日、京都・奈良・大阪へ修学旅行に行った。

１日目は、金閣寺と清水寺を見学した。新幹線で移動し、疲れている人も居たが京都に着くと元気を取り戻し、昔からの建物などを見て感動していた。金閣寺は、存在感がすごく、正面から見るのも綺麗だったが裏から見るのも綺麗だった。清水寺は、夜にライトアップされていて、紅葉と一緒に見ることができて秋を感じることができた。

２日目は、自主研修で、事前にそれぞれの班で行く場所を決めた。私たちの班は八木邸を見学した。八木邸は、新撰組の屯所だった所で当時の刀傷があり、ガイドさんのお話を聞くことも出来て面白かった。

３日目は、薬師寺、奈良公園、ＵＳＪに行った。薬師寺では、法話がとても面白かった。奈良公園では、鹿がたくさんいた。鹿は鹿せんべいを持っている人に近寄って行ったが、カーディガンを食べられている人もいて少し怖かった。しかし、お辞儀を真似しているのが可愛かった。ＵＳＪでは、祝日ということもあり人が多かったが、部屋に戻ると皆ずっとＵＳＪの話をしていて楽しんだ人が多かった。

最終日は、海遊館に行った。初めて見るジンベエザメはとても大きく迫力があった。

思ったよりも短い修学旅行だったが、１日１日の内容が濃く、とても思い出に残るものとなったし、色々な場所に興味を持った。クラスメイトともより仲を深めることが出来た。

（２Ｃ　菅野　希和　佐々木雪乃）

コラム　士魂

▼今年度の盛商では新型コロナウイルスが5類に引き下げられたこともあって4年ぶりに盛商祭が制限なしの開催となった。各クラスとも仲間と一致団結して商品の完売やお客様を楽しませるためのアトラクションに関するアイデアが伺えた。また、生徒会主催の「接客コンテスト」では情報ビジネス科の1年、2年、3年が1位を取るという快挙を果たした。▼もう一つ記憶に残っている出来事がある。硬式野球部が21年ぶりにベスト4に進出したことだ。その中でも特に印象に残っているのは、三回戦の水沢工業との試合と、準決勝の盛岡三高との試合の二つである。水沢工業との試合では雨が降ったり止んだりで悪天候の中の試合となり、一時試合が中断するときもあったが、11対1のコールド勝ちとなった。勝利と共に雨が止み虹が見えたのもあり、とても印象に残る試合だったと思う。準決勝の盛岡三高との試合では、決勝をかけた試合なだけあって白熱した試合になった。投げて、打って、走って、守る、という一つ一つの動作に絶対に勝つという選手の思いが込められていた素晴らしい試合だった。しかし、結果は1対5と残念ながら準決勝で敗退するという形で終わった。それでも、彼らの戦う姿は私たちの胸に熱く深く刻まれた。▼盛商は今年度、創立１１０周年を迎えた。そこで盛商では創立１１０周年記念事業として記念式典、記念講演、記念植樹、野球とサッカーの招待試合を行った。こうした盛り上がりの一方で、盛商の今年度の受験者は減っていて、定員割れした学科もある。創立１１０周年という節目を迎え、さらに盛商が発展していくために、私たち一人一人が、盛商をさらに魅力ある学校にし、発信していきたい。

（２Ｂ　大坪　海斗）

盛商祭4年ぶり制限なしの開催

賑わい戻り 二日間盛況

今年の盛商祭は10月21日（土）、22日（日）の2日間にわたって開催された。今年度の盛商祭は去年とは違い、来場者に制限はなく、飲食スペースも設けられていた。更に後夜祭の開催もあったため、盛商生はかなり張り切って取り組んでいた。そのおかげもあってか今年度の来場者数は2日間で1942名だった。

文化部

盛商祭開会式終了後は、例年の通り盛商さんさ実行委員会による「さんさ踊り」、書道部のパフォーマンス、吹奏楽部の演奏が披露された。

さんさ委員会の発表は8月上旬に有志の生徒と共に参加した、盛岡さんさ踊りで最優秀賞を受賞しただけあって、一体感のある素晴らしい演技だった。

書道部のパフォーマンスは、（back number）の曲に合わせて「水平線」を書いた。書道部全員が息の合った力強い字で、会場の雰囲気を盛り上げてくれた。

吹奏楽部は、「アイデア」「おジャ魔女カーニバル」「名探偵コナンメインテーマ」「ど演歌えきすぷれす第二番」「君の瞳に恋してる」「気まぐれロマンティック」アンコール用に「怪獣の花唄」を演奏してくれた。全員が音色を合わせたい演奏だった。

（2B　大坪　海斗　田中　李空）

1年生

1年生にとっては初めての文化祭であり不安や緊張があった。各クラス当日まで準備を重ね、自分たちもお客様も楽しめるような文化祭にすることができた。

流通ビジネス科AB組は販売実習を行った。客引き作戦を展開し、多くの通行の邪魔になったと思われるが、お陰様ですべての品物を売ることができた。

会計ビジネス科のCD組は簿記すごろくコーナーを作った。簿記について楽しく学べるようなゲームである。中には大きなサイコロを持って廊下を走り回る人がいてとても楽しむことができた。

情報ビジネス科のEF組は自作のゲームを作り、お客様に体験してもらった。中には放課後に残って作業した人もいたが、多くのお客様が楽しく遊んでくださり、努力も報われた。

初めての文化祭でここまでの成果を出した1年生。来年の文化祭も目が離せない。

（1A　菊地　優陽　木村　悠）

2年生

2学年は「盛商マーケット」を開催した。全国の商品を仕入れ、販売活動を行った。まず各クラスで何を仕入れるかを決め、仕入先に電話をした。どのような商品が売れるのか、また魅力があるのかを考えながら商品選定をした。最初は交渉がうまくいかず仕入先が決まらなかったり、上手くいかないことが多々あった。しかし、放課後の時間を使い何件も電話をした。仕入先が決まったら確認のためのFAX作成など交渉をかさねた。文化祭前日は、商品のレイアウトや教室の飾り付けなどを考えた。各クラス個性溢れた飾り付けで盛商を彩った。

盛商祭当日は、沢山のお客さんが足を運んでくれた。1日目で売り切れのクラスもあり大好評だった。しかし、売上が伸び悩んでるクラスもあった。

1日目の反省をし、2日目は商品のレイアウトを変えたり、商品の良さをアピールしたりするなど工夫した。そして無事に大半のクラスが完売することができた。盛商マーケットを通して商品を仕入れる大変さや商品を販売する楽しさを知ることができた。今後の活動にも活かしていきたいと思った。

（2A　千葉　歩和　千葉　悠奈）

3年生

3学年では、第2体育館でA組、D組、E組、F組の模擬店が行われ、校舎2階の教室でB組、C組のお化け屋敷、D組のフォトスポットが行われた。

どのクラスでも行列ができるなど、とても好評だった。C組のお化け屋敷では、3階まで行列ができていたり、何回も体験する人がいたりなど、とても人気だった。

早いクラスは盛商祭の2週間前から、放課後の下校時間ギリギリまで教室に残り、それぞれ準備している様子が見られた。

本番では、どこのクラスも全員で協力し合い、自分たちだけ楽しむのではなく、来校した方も楽しめるような雰囲気を作り、とても良い盛商祭にすることができていた。

（3C　山影　峰葵　大野　晶央）

後夜祭

10月22日に開催された後夜祭で素晴らしい演奏をしてくれたバンド「半チャン☆らーめん」のメンバーに取材をした。今回の活動のきっかけを聞くと、前々からバンドの発表をやりたいと言っていて、機会があったから参加したとのことだ。また、大変だったことを聞くと、初心者が多く、練習時間も少なかったため合わせるのが難しかった、と答えてくれた。今後の意気込みについて聞くと、来年の後夜祭にも出演する予定なので、今回より数段上のレベルで演奏できるように頑張って盛り上げたいと言っていた。今後の伸びしろが楽しみである。

（2B　大坪　海斗　田中　李空）

ダンスで会場を魅了

半チャン☆らーめんのメンバー

熱演に沸く

盛商マートさ、よってってけろ！

２学年流通ビジネス科は9月21日（木）～9月25日（月）の5日間、イオンモール盛岡南センターコートで高校生が開発した商品等を販売する『盛商マート』を開催した。今年のテーマは「よってってけろー　～届けようー盛商のホームラン～」とし、岩手の方言も取り入れ、昨年活躍した岩手県奥州市出身の大谷翔平選手にちなんだホームランの単語を取り入れた。

流通ビジネス科全8班は盛商マートが始まる何ヶ月も前から自分たちで企業や高校に電話をかけ、FAXやPOPを作ったりと日々取り組んでいた。何もかも初めての挑戦で上手くいかないことばかりだったが、無事に盛商マートを開催することができた。

初日はオープニングイベントもあり、大いに盛り上がった。盛商開発のどら焼きやドリップコーヒーも飛ぶように売れ、最終日には完売するほどの人気だった。東北6県から仕入れた商品も各班がお客様への丁寧な対応と接客で、初日で完売した商品もあったようだ。

実際に盛商マートで商品を購入したお客様は、「盛商生らしい明るい接客と、商品の魅力の伝え方が上手いのでついつい手にとってました！」と、嬉しい言葉をもらった。

盛商マートという伝統行事に参加できたことを誰もが誇りに思うだろう。次の機会につなげる良い経験にもなった。この伝統行事をもっと多くの人に知ってもらうため、今後の活動にも注目したい。新2年生の活躍を祈って私達の代からバトンをたくす。

（2A　千葉　歩和　千葉　悠奈）

教えて！おすすめ図書

今回は図書部の土谷先生に、今皆さんにぜひとも読んでもらいたいおすすめの本を紹介していただいた。

紹介していただいた本は平野啓一郎さんによって書かれた『本心』という作品だ。この本は2040年を舞台に、母を亡くした青年（主人公）がAIによって再現された母を購入し、母の生きていた時の本心を探っていく物語となっている。この作品には格差や気候変動の話題も取り入れられている。『本心』を読んだ感想として、「主人公の誠実さが伝わり、とても胸が痛くなる」と先生はおっしゃっていた。

筆者の平野啓一郎さんは2年生の論理国語で学習する評論「自分を捉えなおす」の筆者でもある。この「自分を捉えなおす」の内容と『本心』をあわせて読むことがおすすめだそうだ。「本を読むことが好きな人や評論を学習した2年生にぜひ読んでみてほしい」とおっしゃっている。

また、図書館には論国コーナーがあり、教科書で学習した評論や参考図書も紹介している。小論文の参考にしたり興味のあることにどんどん活用してほしいとも話してくれた。

私も進路活動のために図書館をもっと利用していこうと思った。

（2C　菅野　希和　佐々木雪乃）

フィールドワークで産業を知る 1学年地方創生プロジェクト

11月24日、私たち1年生は、総合的な探究の時間に地域産業の強みを知ることを目的に沿岸地域でフィールドワークに参加した。訪問場所は各クラスで事前に決め、C組は宮城県気仙沼市を訪問した。私たちのグループは4人でサンマリン気仙沼ホテル観洋を訪問した。このホテルは東日本大震災の被害からライフラインが止まり、再建にも苦労したそうだ。ホテルの屋上のタンクにたまっていた水や冷蔵庫にあった食料のおかげで何日か不便なく食事をすることができたそうだ。今ではSNSでの情報発信に力を入れていて、お客さんに「また来ます」と言ってもらったときにとてもやりがいを感じると話されていたのが強く印象に残っている。このホテルの強みは水産物を直接仕入れるため新鮮なものを提供できることだ。またホテルからの眺めも魅力の一つだ。

今回の地域産業の強みを知るために行ったフィールドワークでは、気仙沼市の様々な良さにふれることができ東日本大震災の時の被害も知ることができた。これからも地域の復興に向けて尽力していくことが必要だと感じた。

（1C　菅原　零加　藤村　花音）

クローズアップ・ティーチャーズ 第16回

今回、紹介させて頂く先生は、佐々木俊一先生と中村まこ先生だ。

佐々木先生に盛商の印象を聞くと、「行事が盛んであり生徒が元気。校舎が綺麗。またサッカーが強いという印象がとてもある。」などと、様々な盛商についての印象をあげていただいた。そして、好きな言葉について聞いたところ、「情熱（passion）」と言っていた。なぜこの言葉が好きなのか聞いたところ、佐々木先生は男子ハンドボール部の顧問であるが、部活動を行う時にハンド部の生徒が合言葉で言っていたからだとおっしゃっていた。合言葉から良いチームプレイが見られそうだと思った。

佐々木俊一先生

続いて中村まこ先生に盛商の印象を聞くと、「校舎が綺麗。しかし、体育館とのギャップに驚いた。体育を教えているということもあり、室内プールがあるのにも驚いた。」と言っていた。そして、好きな言葉を聞いたところ、「No pain, No gain」（痛みなくして得るものなし）と言っていた。スポーツをやっていた先生が、ずっと大切にしていた言葉だそうだ。

中村まこ先生

私も先生のように大切な言葉を見つけたい。

（1B　小笠原　穂　伊藤　琉南）

事務室の窓 Vol.15

今回の事務所の窓では和野美香さんにお話を伺った。

まず、和野さんに盛岡商業に来る前に持っていた印象を聞くと、「部活動が盛んな学校であり、運動部だけではなく文化部も活躍しているイメージ」と話してくれた。盛商に来てからは、「賑やかで明るい子達が多い」とのこと。和野さんの好きな食べ物は餅。一年中食べるほど餅好き。餅つき機を購入しようか迷っているそうだ。

和野美香さん

最後に全校へのメッセージをお願いすると、「高校生活はあっという間。全力で楽しんで欲しい」と話してくれた。

和野さんはとても優しく、おおらかな人柄で素敵な方だった。あまり話す機会がないと思うが、事務室に行ったらぜひお話ししてほしい。

（2A　千葉　歩和　千葉　悠奈）

シリーズ この部が熱い!! Vol.21

硬式野球部

硬式野球部は部員20名、マネージャー3名の計23名で活動している。3年生引退後の秋の大会では県ベスト8という結果を残した。今年度の夏の大会でのベスト4という記録を更新し、甲子園に行くことを目標に日々練習に励んでいる。

現キャプテンの横山嘉人さんは、「今まで3年生に頼ってばかりだったので、今後はキャプテンとして3年生がしてくれたようにチームをしっかりと引っ張っていきたい。」と語ってくれた。その意気込みを踏まえて、いくつかのグループに分かれて練習をするときは、各グループに必ず1年生を入れて、教えながら練習を行っているという。今のチームに対しては、目標を達成するため自主練習などを行い、個々の力を高め、指摘し合いながら練習をすることでチーム全体の力も上げていきたいと思っているそうだ。

今年度の夏の大会では、21年ぶりに県ベスト4という輝かしい成績を収めた。そこで、その時のキャプテンであった、3年生の竹村陽人さんにもお話を伺った。竹村さんにとって最後の大会であった夏の大会では、とても楽しく充実して、目標よりも更に上の結果が出せてよかったと思うと話した。キャプテンとして意識していたことは、他のメンバーの意見や考えを聞いてそれを先生に伝え、実践するということだそうだ。後輩へのメッセージとして、甲子園という高い目標があると思うが、きっと成し遂げられると思うので、応援していきたいと話してくれた。

（3B　増澤　香乃　野川いぶき）

第105回全国高等学校野球選手権記念岩手大会

7月10日	1回戦	対　花北青雲	10-8
7月14日	2回戦	対　岩　　手	9-2（8C）
7月20日	3回戦	対　水沢工業	11-1（5C）
7月22日	4回戦	対　一関学院	4-3
7月24日	準決勝	対　盛岡第三	1-5 ※ベスト4